

# 交通手段別利用者の滞留特性の把握 — 社会実験時の小諸駅前広場を対象として —

令和7年2月 柿崎 雄介

## 要旨

### 目的

日本では地方都市を中心に急速な人口減少や高齢化、モータリゼーションの影響を受けている。対策として中心市街地の活性化、都市機能及び地域公共交通の維持が重要である。そこで駅を都市の拠点と捉え、多様な活動を生み出す駅まち空間の整備が近年推進されている。本研究では、駅まち空間の創出が交通手段別利用者の滞留に与える影響と差異を把握し、今後の小諸駅の駅まち空間整備に向けた参考情報の提示を目的とする。

### 方法

現地調査で取得した利用者の滞留に関するアクティビティデータと、属性に関するアンケートデータを用いて分析を行う。まず滞留行動の観点からクロス集計と残差分析を実施し、利用者の行動の特性を把握する。次に交通手段の観点から同様の分析を実施し、交通手段別に滞留の特性を把握する。最後に駅来訪交通手段選択に影響を及ぼす滞留特性を数量化II類により把握し、滞留と交通手段の両観点から駅まち空間整備について考察する。

### 結論

まず公共交通利用では若者が通学、高齢者が観光目的で利用傾向がある一方、滞留傾向は多岐に渡るため、アクティビティの多様性を考慮した空間整備の必要性が示唆された。次に自動車利用ではファミリー層が散策・休憩やイベント目的で短時間滞留するため、まちなか回遊の合間に立ち寄れる憩いの空間整備の必要性が示唆された。さらに徒歩利用では学生が待ち合わせや乗車・送迎待ち目的で日常的に長時間滞留するため、学生のニーズと滞留の快適性を考慮した空間整備の必要性が示唆された。また滞留行動と滞留時間が来訪交通手段選択に影響を与える滞留特性であることも明らかになった。小諸駅周辺には観光施設や公園が立地し、滞留の生じやすい場が整備されている。以上から駅まち空間は滞留創出の役割を担い、持続可能な都市の形成や都市回遊の創出に寄与すると考えられる。

指導教員 森本 瑛士 助教